



放置竹林の拡大対策

生物多様性の低下や里山景観の喪失を引き起こしている放置竹林を適正に管理するために、竹林の分布状況の調査や駆除方法などの試験を行っています。

放置竹林とその問題

- タケは有用な植物で、古くから食材や生活用品などに利用されてきました。
- しかし、需要の減少とともに竹林は放置されるようになり、まわりの森林や田畑へと、無秩序に分布が拡大しています。
- その結果、生物多様性の低下や良好な里山景観の喪失などの問題が、全国規模で生じています。



分布拡大のようす



放置竹林内の状況

竹林の分布状況の把握

- 放置竹林対策を効果的に進めるためには、竹林の分布状況の把握が欠かせません。
- そこで、空中写真を利用して竹林を効率的に把握する手法の開発に取り組んでいます。
- 竹の葉が黄色味を帯びる葉替り期（4月～5月）の写真を利用すれば、竹林と広葉樹林を判別しました。



Google Earthを用いた竹林判読
※黄色枠で囲っている部分が竹林



竹林 広葉樹林



竹林の葉色の季節変化

放置竹林の効率的な駆除方法

- 他機関と連携しながら、タケの駆除方法の試験研究にも取り組んでいます。
- 調査の結果、伐採翌年はヤブ状のタケが再生するものの、年2回の刈り払いを7年程度継続することで、ほぼ駆除できることが分かりました。
- また、除草剤を用いれば翌年の再生も大幅に抑制できることや、竹稈注入処理をすれば環境への負荷も軽減できることが分かってきました。
- これらの成果は、森林総合研究所を中心に、マニュアルにまとめて公開しています。<https://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/documents/leftbambooforest.pdf>



再生したヤブ状タケ



除草剤の竹幹注入

